

下関市大規模災害対応訓練

〈ねらい〉

台風接近による高潮警報が発表され、避難勧告が発令されたときの避難訓練と高潮災害発生後の避難所生活を体験し、災害時における的確な判断力や行動力を育成するとともに、他の人や地域に貢献できる心と実践力を養う。



実施内容

- 1 実施日時：平成26年8月26日（火）・27日（水）
- 2 実施場所：長府中学校体育館
- 3 参加者：豊浦小学校児童 26人、教職員 16人
長府中学校生徒 18人、保護者 4人、教職員 12人
県立長府高等学校 6人、教職員 1人
長府地区住民 17人、下関市教育委員会5人、山口県教育委員会1人

4 プログラム

【1日目】8月26日（火）

	13:00	14:00	15:00	17:00	19:00	20:00	22:30	
避難訓練		【防災授業】 ・長府地域の災害の歴史及び台風・高潮の発生メカニズムを学ぶ	【研修Ⅰ】 ○防災グッズ製作 ・ランタン ・雨ガッパ ・紙食器	【研修Ⅱ】 給水訓練 ----- 夕食準備（備蓄食）	夕食	【研修Ⅲ】 こどもも熟議	【研修Ⅳ】 寝床作り	就寝

【2日目】8月27日（水）

	6:00	6:30	6:45	8:30	11:30	12:00	
起床	・健康観察	ラジオ体操		朝食	【研修Ⅴ】 ○救護訓練 ①応急措置 ②心肺蘇生・AED ③ロープワーク	閉会行事	保護者への引き渡し訓練
床	・後片付け	朝食準備					

5 活動の様子

1日目

《避難訓練》

下関市教育委員会からの防災訓練メールを受けて、長府警察署や東消防署の署員の見守る中、豊浦小学校児童が長府高校の生徒に援助されながら長府中学校体育館に避難をしました。

中学生は避難者を校門で出迎え、受付まで誘導しました。



〔二次避難場所に到着〕



〔受付で記名〕



〔活動班ごとに点呼〕

《長府地域の災害の歴史を知る》

平成11年の台風18号による高潮被害の様子を、スライドを通して学びました。

《防災授業》

下関地方気象台の職員から、台風や高潮の発生メカニズムと対応について詳しく学びました。



〔過去の災害を学ぶ〕



〔台風18号の高潮被害〕



〔高潮の発生メカニズムを学ぶ〕

《防災グッズの製作》

防災アドバイザーのユーモア溢れるお話しと分かり易い説明のもと、楽しく日常品を活用した防災グッズを製作しました。被災地での豊富なボランティア経験をもとに、日頃の備えや緊急時の対処方法等についても学びました。



〔ランタンづくり〕



〔雨ガッパづくり〕



〔紙食器作り〕

《非常時応急給水訓練》

下関市上下水道局の職員の方から、非常用給水バッグの使用方法や肩紐の取付方法を指導してもらい、実際に給水車から2日分の水6リットルを給水バッグに入れ、避難所生活で使用する飲み水や炊き出しの水として活用しました。



〔給水車〕



〔給水バッグ〕



〔給水〕

《夕食》

地域協育ネット「ほっちゃや」と長府婦人会のみなさんにカレーライスと備蓄米（アルファ化米）を準備してもらいました。製作したばかりの紙食器を使い、おいしくいただきました。紙食器はビニール袋で覆うことで、再利用と水の節約になることを学びました。



〔アルファ化米に熱湯を注ぐ〕



〔カレーを盛りつけ〕



〔おいしくいただきました〕

《こども熟議》

自然災害発生時に『自分たちにできること』を、校種・学年別に分かれ考えました。みんなが積極的に意見を出し合い、それぞれのグループで意見をまとめ、全体の場で発表し、各グループの意見を確し合いました。



〔熟議〕



〔発表〕



〔意見の共有〕

《段ボールを使った寝床づくり及び防災マップの紹介》

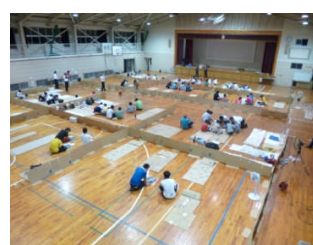
下関市防災安全課の職員に、段ボールを使った生活スペースづくりを教えてもらい、みんなで協力して寝床を作りました。グループの人数・気温・滞在期間等により、スペースの大きさや間仕切りの高さを変える必要があることも学びました。また、防災マップを通じて、災害への備えについての話を聞きました。



〔間仕切りの作り方説明〕



〔寝床づくり〕



〔寝床完成〕

2日目

《洗面・体操・朝食》

朝6時に起床し、健康観察をし寝床を片付けた後、みんなでラジオ体操をしました。涼しい中、朝日を浴びて行ったラジオ体操は、とても気持ちのいいものでした。



〔間仕切りの解体〕



〔片付け〕



〔ラジオ体操〕

《朝食》

長府婦人会のみなさんに、朝食のわかめむすびと味噌汁の準備をしてもらいました。温かいおむすびと味噌汁はとてもおいしかったです。



〔災害用移動炊飯器での炊き出し〕



〔ラップを使ってのおむすびづくり〕



《救護訓練》

東消防署署員に、①心肺蘇生・AED訓練 ②応急措置・担架搬送訓練 ③ロープワーク を3班に分かれ、ローテーションしながら教えてもらいました。実践的な活動で大変勉強になりました。



〔心肺蘇生訓練〕



〔担架搬送訓練〕



〔ロープワーク〕

《保護者への引き渡し訓練》

最後に、保護者への引き渡し訓練を行いました。子どもを迎えに来られた保護者が引き渡しカードに必要事項を記入した後、教職員が掲示用名簿で確認を行い、確実に子どもを引き渡しました。保護者の顔を見た子どもたちは、安心した表情で帰路についていました。



児童生徒アンケート結果

No	項 目	とても	まあまあ	あまり
①	以前よりも災害に対する認識が深まりましたか	42人	3人	0人
②	「避難する」ことの大切さが分かりましたか	44人	1人	0人
③	「自分にできること」が見つかりましたか	38人	7人	0人
④	避難所での生活体験が、今後に活かされると思いますか	41人	4人	0人

感想

- ◇ 災害発生のことを考えて、家族で集合場所等を相談したいと思いました。(小学生)
- ◇ 災害時は、いつでも出られるように準備をしておき、安全に避難することが大切ということが分かりました。(小学生)
- ◇ 避難所では、子どもでも手伝いをすることができること、迷惑がかからないよう行動することなどが分かりました。(小学生)
- ◇ 避難所生活は、布団がなくて段ボールで寝たり、風呂に入れなかったりと、大変ということが分かりました。(小学校)
- ◇ 避難することの大切さ、命の大切さを改めて感じました。(中学生)
- ◇ 災害を甘く見てはいけません。日頃から災害への関心を持ち、今回のような体験を通していろいろな知識や技術を身に付けておくことが大切だと思いました。(中学生)
- ◇ 中学校が避難所になったら私たちにできることはたくさんあると思ったので、自分たちにできることを精一杯したいと思いました。(中学生)
- ◇ 二日間の体験を通して、みんなで協力することや物の大切さがよく分かりました。また、災害発生時に自分たちにできることなどを協議することにより、防災について考えるととてもよい機会となりました。本当に災害があった時は、今回の経験を生かして、みんなで助け合いたいです。(高校生)
- ◇ 災害に関することに興味がわき、意識が変わりました。家族で住んでいる地域の様子を知り、災害の時の待ち合わせ場所や避難する時のグッズを家族で作ることにしました。(保護者)